

令和8年度良好な環境を活用した観光モデル事業 新規選定団体の概要



	団体名（活動場所）	事業名	事業概要
1	株式会社太極舎 (岩手県八幡平市)	日本名水百選「金沢清水湧水群」が生み出すウォーター・エクスペリエンスによる自然保全モデル事業	名水百選である「金沢清水湧水群」を対象に、水の調査・学び・体験を組み合わせたプログラムを構築する。自然共生サイトの認定も視野に入れ、製造・生産・観光等の産業の協同、その経済成果を水環境保全に再投資する循環型モデルの確立を目指す。
2	塩釜市漁業協同組合 須賀漁組 (宮城県塩竈市、利府町)	松島湾盆栽 (Matsushima Bonsai) プロジェクト	「令和の里海づくり」モデル事業の対象地を含む日本三景・松島の多島美を「海上の盆栽」と捉え、漁師と来訪者が協働して行う島嶼景観の手入れを高付加価値観光体験として展開。気候変動による枯れ対策と観光収益を繋げ、里海景観を持続的に守るリジェネラティブ・ツーリズムモデルを構築。
3	檜原村エコツーリズム推進協議会 (東京都西多摩郡檜原村)	東京の水源を守るグリーンインフラ「山里古道」の再生：東京の「村」の生活文化と古道整備体験を核としたリジェネラティブ・ツーリズム構築事業	エコツーリズム推進全体構想の認定地である檜原村において、東京の水源涵養を支えてきた「山里古道」を気候変動適応機能を担うグリーンインフラとして再生し、リジェネラティブな観光地モデルを構築する。古道整備体験と生活文化体験を組み合わせた高付加価値な体験型観光コンテンツを造成し、保全と活用の好循環を目指す。
4	一般社団法人富山県西部観光社 水と匠 (富山県砺波市)	観光を通じた砺波平野・散居村エコシステムの再生と気候変動適応を推進する新たな観光地域づくり事業	名水百選に認定された瓜裂清水を含む砺波平野の散居村が有する水循環・屋敷林・水田を気候変動への適応機能を備えたエコシステムとして再評価する。水がつくる暮らしを体感するコンテンツや関係人口を含む共創型トラストコミュニティの造成、自然共生サイト認定も視野に入れた持続可能な観光地域モデルの構築を目指す。
5	株式会社MIYAMOTO (長野県小海町)	小海町ネイチャーポジティブ保養地構築事業 一環境配慮型滞在モデルと企業実証連携による再生型観光の実装	良好な環境創出活動推進モデル事業の対象地である八ヶ岳中信高原国定公園内の松原湖・湧水環境にて、健康と環境が両立する高付加価値なネイチャーポジティブ保養地モデルを実装する。環境通訳者としてのセラピスト育成等により、観光収益が環境保全と人材育成の循環を促す。
6	NPO法人ORGAN (岐阜県郡上市、美濃市、関市、岐阜市)	自然と文化と人を再生する源流へ遡る旅～長良川流域の水循環を活かしたリジェネラティブツーリズム基盤構築事業～	名水百選・音風景百選に認定された長良川流域にて、源流から下流まで一体で捉えた「源流遊行」型流域プログラムを展開する。水が育む文化に参加し、自らも蘇る流域型観光地域を実現し、来訪者の消費・関与が流域の保全と文化担い手の創出に還元される好循環を確立。
7	一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会 (京都府南丹市)	Miyama Stewardship プログラム～ベスト・ツーリズム・ビレッジを来訪者と共に守り育て、未来につなぐ～	エコツーリズム推進全体構想の認定を受けた南丹市美山地域において、来訪者を一過性の観光客ではなく環境の守り手 (Steward) として位置づけ、地域課題や環境・文化保全を学ぶ、保全活動に寄与する滞在型プログラムを構築する。
8	株式会社レノファ山口 (山口県美祿市)	観光客がユネスコ世界ジオパークを守る「秋吉台カルストガーディアンプロジェクト」	ユネスコ世界ジオパーク・名水百選・未来に残したい草原の里100選に選出された草原やラムサール条約湿地に選定・認定された草原・地下水エリアを対象に、「カルストガーディアン」による関係人口が地域の継続的な担い手となるモデルを確立。保全・観光・スポーツが循環する地域像を実現する。
9	王子ホールディングス株式会社 (OMO 王子の森活性化推進部) (高知県四万十町)	「王子の森 四万十」森のひらきプロジェクト	四万十川流域の暮らしを支える豊かな自然を地域の「共有の自然資本」と位置づけ、自然共生サイトである「王子の森 四万十」を舞台に、自然や森林文化の価値を体験として提供するプログラムを開発する。地域と企業の協働により、自然共生と地域経済の活性化が両立する持続可能な観光モデルの構築を目指す。
10	株式会社わんさか (沖縄県名護市)	大浦川リジェネラティブ Valleyプロジェクト	良好な水環境保全・活用モデル事業の対象地であるマングローブ林を有する大浦川流域にて、リジェネラティブツーリズムの推進を基盤として流域循環モデルを確立する。自然環境の保全・再生、地域経済の循環、コミュニティの再生を実現し、流域全体の持続可能性及びwell-beingを高める。